

中城ごさまる科第2回教材研究会

議事録

提供資料

「中城ごさまる科」教材研究会 議事録
1・2年生 （中城小学校・津覇小学校・中城南小学校）

作成 沖縄時事出版

日時 令和2年1月27日

場所 吉の浦会館

課題

中城小学校1年

12月に中城城跡の見学をする予定だったが、天候不良により1月に変更することになった。次年度はスタート時期を早めに設定して12月までに中城城跡の見学を終えられるようにしたい。

ガイドさんの話は内容が盛りだくさんである。こちらの押さえないことを事前に伝えるなど調整が必要だったと感じる。

今後もYouTubeとよむ中城チャンネルの動画をうまく利用したい。

津覇小学校1年

今年度赴任したので、よく見えない中での取り組みだった。

6学年を通した内容の理解もした方がいいと感じた。

中城城跡へ見学をしたが、振り返りができるような写真、子供用のパンフレットのようなものがあるといいと感じた。また、ワークシートなども取り入れてみたいと感じた。

中城南小学校1年

今年度赴任したので、十分な教材研究ができていたか疑問。教師が地域のことを知っていないという反省もある。次年度、村の職員研修をしてみてもいいと思った。

中城城跡見学の際、言葉が難しく、ガイドさんとの調整が必要と感じた。

中城小学校2年

配当時数を超えてしまった。時間を工夫した確実な授業計画の実線が必要と感じた。

6学年を通した内容を見通せるものがあるといいと感じた。

5年生でも護佐丸の一生に触れる。内容が似通っていることから、2年生の内容を減らしてもいいのではと感じた。

津覇小学校2年

読み取りにならないように、護佐丸の年齢毎に扱ってみたが難しさを感じた。

変化のある授業にしたいので、体験学習ができないかと思うがどんな資料があるのか知りたい。

今年度は、「がんばりノート」を用いて、都度都度まとめて保護者への報告としたが、『中城ごさまる科』の取り組みをインパクトのある方法がないか検討している。せっかくここまで取り組んでいるので、地域の人にぜひ伝えたいと思う。

中城南小学校2年

ワークシートと板書計画に基づいて授業を進めた。課題は専用副読本。次年度に使い回すことになっているので、メモなど、直接、書き込ませたりすることができないのが残念だった。内容について、教師も把握して異な事もあるので難しいと感じた。

護佐丸・阿麻和利の乱の件では、固有名詞「阿麻和利」を使っていいのか疑問に感じた。

出版社から

ごさまる科全体の流れが知りたいとあったが、どんな形がいいのか？

例えば、指導書には、表紙裏に1～6年の内容が掲載されている。具体的な形の希望があれば、村教委と協議の上、可能な対応をしたいと考えている。

護佐丸は文献史学上よく分からない人物。なので、護佐丸について体験をするのは難しいかもしれない。

伝説の話という前提で、護佐丸の兄と伝わる伊壽瑠按司(いじゅるんあじ)の墓(伝)が中城城跡近くにある。護佐丸の墓は中城城跡近くの台グスクのふもとにある。そこに訪れるということも体験学習と考えるがどうか。

また、戦をとっかかりとすると、武具(兜・鎧、刀)のパーツが、中城城跡出土品として、中城歴史資料図書館歴史展示室に展示されている。また、自由に触れる複製品として火矢(三眼鏡)も展示されている。これらを用いた体験学習は可能だが、2年生という学年を考慮すると甚だ疑問。

「中城ごさまる科」教材研究会 議事録
3・4年 （中城小学校・津覇小学校・中城南小学校）

作成 沖縄時事出版

令和2年2月5日

吉の浦会館

課題の共有

中城小学校3年

2学期後半から取り組みが始まる。1学期はやめに取り組んで、子供たちに意識付けできた
らよかった(時期を変えればよかった)

津覇小学校3年

10月中城城跡に見学。

10月までに調べたいことをグループに分かれて

12月の授業参観の時に保護者に見てもらうために発表会を開いた。これを通して、子供た
ちの姿とごさまる科のことを知らせたことがよかったと思います。

中城南小学校3年

課題としてあげられるのは、護佐丸についてとか、グスクの作りについては、1, 2年の学習
で子供たちが知っていることだったので、グスクのことを伝える人たちに焦点をあてるという
ことを考えて、津覇小が取り組んでいる発掘している方に話を聞くのもいいと感じた。もう一
つが、はんた道とか校区外の文化財にも焦点を当てて学習をするのもいいかもしれないと
感じた。

中城小学校4年

歴史展示室に見学に行って、学芸員の話聞いたのはよかった。

今日の研究会で、他学校の取り組み、例えば中城城跡と他のグスクの年間入場者数と比較
したり、入場者数を増やすための方法について考察して、商品開発のアイデアをだすなど
していた。それらの視点を興味深く感じた。

中城村の取り組みを学ぶだけではなくて、よりよくするためにはどのような方法があるのか考
えさせることができればよかった。

津覇小学校4年

副読本を中心に授業を進めたので、体験学習や学芸員さんの話を聞いて深めていけたらと
感じた。

中城の観光、地域の特色などを掘り下げたらもっと深まっていくのではと感じた。

中城南小学校4年

身近に感じることの課題として、外部人材を活用することができなかった。次年度は、身近な人を呼んだり、出向いたりして間近に感じて、今回見られなかったものを見ることができるようになりたい。社会科ではゲストティーチャーを呼ぶが、おねがいをするとこちらの意図とずれた内容になることがあるので、事柄を絞って、児童のインタビューに答える形をとることにした。

その時間のねらいにそった発問をするような形も外部人材の利用では考慮したいと思った。学年がかわると、取り組みが大変だと感じる。なので、写真(記録)をとって実践情報を共有するといいと感じた。

総合で「観光」を設定して、「ごさまる科」と関連させてとりくむと時間数も確保できていいのかなと感じた。

出版社から

グスクを伝える人たち 4年生もガイドを取り上げているので、重複するので程度に考慮を。副読本の内容を確認してからの取り組みを。

校区外の文化財 『中城村の文化財』(発行中城村)がでている。学校図書館、または、護佐丸図書館に収蔵されているので確認してはいかがでしょうか。

板書例は大切にこちらも同じ気持ちである。

まとめ(教育委員会より)

総合を必ずしも自然、福祉をやらないといけないわけではない。

観光に変えてフィットさせていくことは可能なので、学校で確認をしてください。

学習内容の複数学年での取り扱いも確認すると教材の深い理解につながると考えます。

以下直接、先生より確認等あり

発見!なかぐすく が検索サイトに表示されない。

URLを手打ちすると出てくる。もっと簡単に表示される方法はないか。

板書計画の作成予定はない。

板書記録をストックしておいて、共有できるような状態にしておき、次年度につなげることがかとうでは？

「中城ごさまる科」教材研究会 議事録
5／6年 （中城小学校・津覇小学校・中城南小学校）

作成 沖縄時事出版

令和2年2月6日

吉の浦会館

課題

中城小5年

音読劇をした。

グループに分かれての記録を作ったので、来年度の先生方の資料になるかも。

10時間で音読劇の練習をしたのだが、他の学校の取り組みを聞くと、総合など他の時間から調整してもいいのでは。同じように保護者に見せる機会を設けると子供たちのモチベーションも上がるのでは、と感じた。

津覇小5年

脚本と用意された計画に基づいて取り組んだ。13時間だけど、練習に時間がとられて少しオーバーをしてしまった。

下学年（4年生）にビデオで見せる予定だったが、盛り上がって、子供たちと話し合った結果、保護者に見せることになった。時期として、1年生にも見せることができた。ゴールをしっかりと設定したい。人に見せた方が広がると感じた。中城教育の日（2月1日）に見せることをゴールとしていいのか、検討の上、次年度に引き継ぎたい。

南小5年

つなぐという視点から。一年間の学びを低学年に見せるという帰結。成長したことを見せられるのだと感じた。

時期的には、2月1日を意識していいのではと思う。

今年、赴任してきたので、ごさまる科の取り組み状況が分からなかった。我々の情報共有が大事だと強く感じた。

中城小6年

成果物の提供が最初にあったので、他学校を含めた昨年の取り組みを見ることができてとてもよかった。

新聞をしっかりと作り込んでいるので、取り組んだことが子供たちの人心につながっていると感じる。掲示物も教育の日に向けて、継続させていけるといいかなと感じた。

1学期の遠足やハンタ道を歩くということも参考になりました。

津覇小6年

新聞をつくるという計画でいたので、平和学習、キャリア教育などを通して、新聞作成（表現）を

身につけることにつながった。ごさまる科でその結実につながったのでは。4時間ぐらいで今回はつくれた。こういった成果物を共有することで、つぎの担当者へもつなぎやすくなるのではと思う。

ハンタ道を終わった後に、資料館を見せて、副読本に入ってみてもよかったと感じている。

スクールバスを活用するなど、方法があるらしいので、その情報を早めに入手すればよかったと反省。

南小6年

歴史の資料がほしい。

15時間で追われるようにワークシートを用意してそれに沿いながら学習を進めた。前半10時間で学習を進めて、2時間で護佐丸資料館（歴史資料展示室）の見学と調べ学習をとった。その後、新聞作成に入った。下学年までに学んだこと、今年副読本で学んだこと、自分で調べたことを用いて資料作成をした。

学校の実態として、転出入が多いことから、興味の差、情報量の差がある。また、中学受験をする子の動機付けが課題か。

資料を披露する場がないことや興味があればすぐに調べられる環境作りなど、これからの課題もある。

出版社から

山田グスクは、危険なので多くの子供たちで入ることは難しい。麓の護佐丸父祖の墓も大勢で行くのは難しいのでは。

座喜味城跡の方がよろしいでは。今帰仁城は、志慶真御門が伝承で取り上げているので、そこでもいいのでは。

歴史資料展示室には、グスク系土器の出土や、数多くの中国製陶磁器の出土がグスク時代の特徴。これらは、展示室に展示されている。

県立博物館の企画展の情報などもお伝えできる。

入学時からごさまる科に触れている子供が、現在の高学年の児童。地域の偉人（護佐丸）に愛着を持っている育っている。これにより、アイデンティティがしっかりつくられる。中学、高校、県外に行っても自分の地域について語ることができる子供たちに育つのではないか。

中城・護佐丸に誇りを持っていると、先生方の発表から強く感じた。

まとめ

これまでの教材研究会でも「つなぐ」というワードは出てくる。ビデオの話もあったが、板書も記録しておいてそれを次年度につなげるというアイデアもある。

今日のような形でごさまる科の引き継ぎをしてくれるといいと感じた。